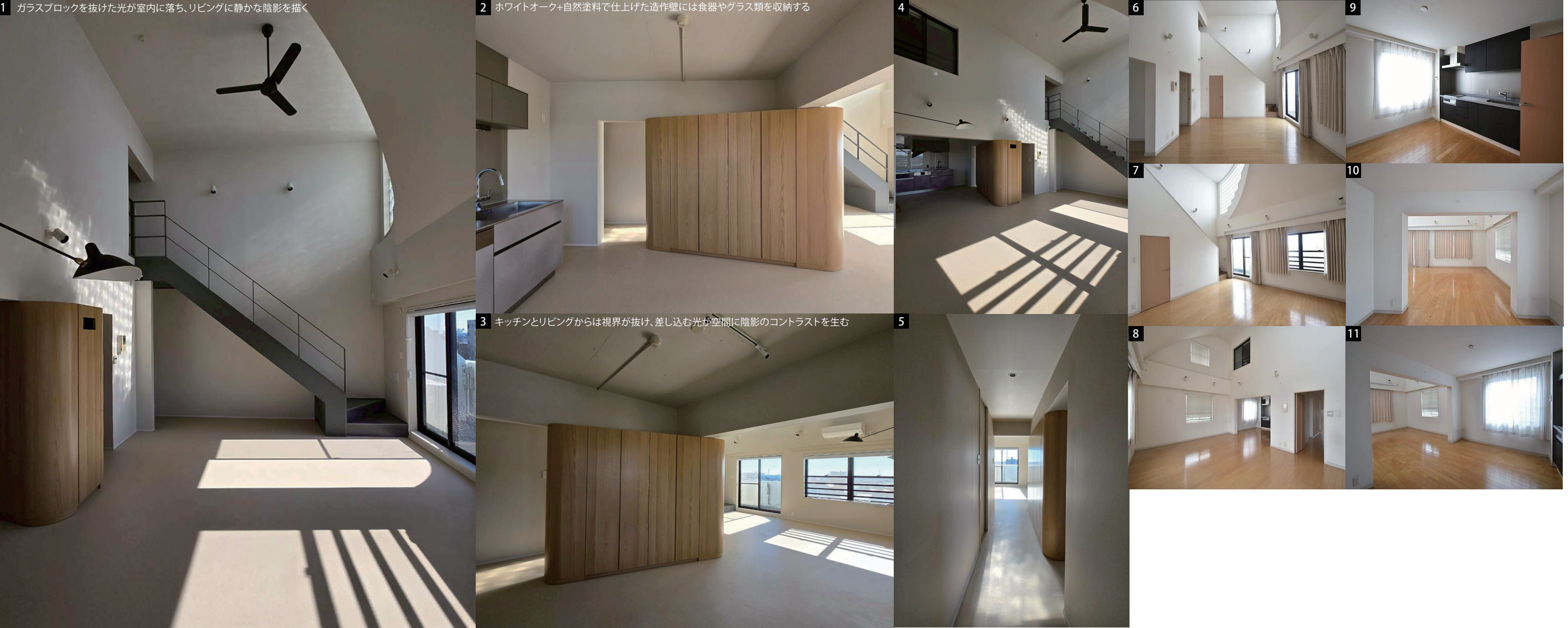


タイトル		南浦和の壁		所有・ 建方形式	持家共同建	講評
設計	(同)kanap一級建築士事務所	施工	(株)タケダ工務店	構造	RC造	

壁構造のマンションでは、躯体の位置でほぼプランが規定されてしまう。そこを逆手に取って壁を板で取り巻き、収納と間仕切りを兼ねる大きな家具を設えた。100m²超えの住戸ということで、コストを抑えながら、わずかな操作で特徴的な空間を生み出している。

リフォーム前後の写真



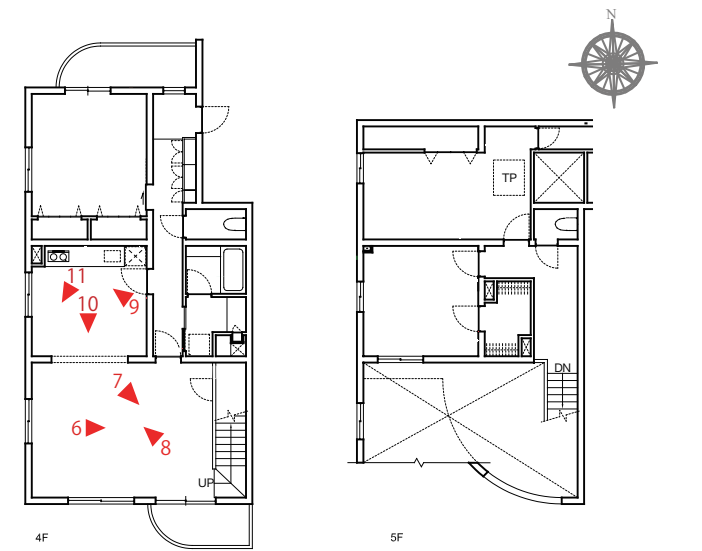
リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想・満足度／社会や地域の課題解決に資する取り組み等、審査基準に適合することを示す具体的内容

【動機/社会的背景】 物件価格と施工費の高騰が続く現在、「中古+リノベーション」という選択肢は、かつての合理性を失いつつある。関東圏では、物件価格の上昇が著しく、自由な住まい方を実現する道筋そのものが狭まっている。本案件は、1992年竣工・RC造・134㎡のメゾネット型マンションのリフォーム工事。下階にLDK(19.4帖)と和室(8帖)、上階に2洋室とWICを持つ、二層にわたる立体的な住空間である。吹き抜けを縦断する階段、ガラスブロックから差し込む光と陰影、天窗が切り取る空の断片。この物件はすでに、豊かさの素地を持っていた。		【設計の工夫点】 意識したのは「何もしない」こと。足すのではなく、削ぐ。節めるのではなく、余す。設備・仕上げの更新は最小減にとどめ、設計の介入を二点に絞り込んだ。ひとつは、壁への介入。空間を横断するこの大きな家具は、壁でありながら収納であり、間仕切りでありながら動線を生む。4つの機能を1つの要素に溶かし込むことで、素材そのものの存在が抽象化されることを目指した。もうひとつはアイアン階段への更新である。既存の閉じた階段を部分撤去し、細い鉄骨のフラットバーで構成されたオープン型のアイアン階段に置き換えた。かつて上下を分断していた階段は、吹き抜けの空間を縦断する「光の透過装置」へと転換される。既存ドアを撤去。134㎡の二層空間を仕切られることなく、一つの流動的な空間に再編すると共に、1階床の仕上げをリノリウムで統一し、空間の一体感と生活環境に配慮した。	
---	--	--	--

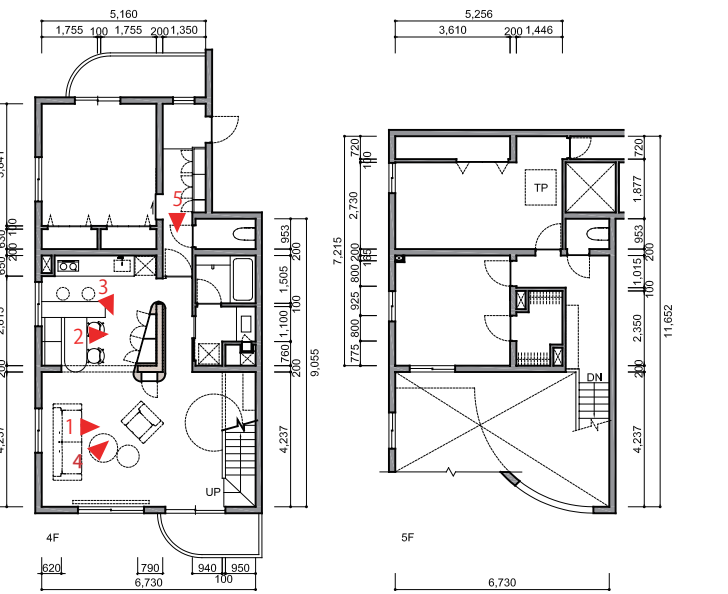
右記に該当する場合は✓(審査基準参照) ☒ a.ストックの有効活用 / ☐ b.技能者不足への対応 / ☐ c.地域・コミュニティの活性化 / ☐ d. 既存流通の活性化等

lw値	リフォーム前	リフォーム後	UA値	リフォーム後	性能向上等、特に配慮した事項
所在地	埼玉県さいたま市		新築竣工年	1992 年	築後年数 34 年 施工期間 40 日間
該当工事床面積	134 ㎡		総工事床面積	134 ㎡	該当部分工事費区分 1,000万円 / 総工事費区分 1,000万円
居住者構成	65 歳以上: 0 人 / 40 ~ 64 歳: 0 人 / 15 ~ 39 歳: 1 人 / 14 歳以下: 1 人 / ペット: 0				

リフォーム前の平面図



リフォーム後の平面図



リフォーム部位: ■居室/ ■台所/ ■浴室/ ■便所/ ■洗面所/ ■廊下/ ■階段/ ■玄関/ □エクステリア/ □マンション共用部分/ □その他